

(様式第2号)

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日: 令和7年5月28日

事業者名: 株式会社 北栄建設

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
環境	エネルギー抑制や、温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組んでいる。	⑫つくる責任 つかう責任, ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに, ⑥安全な水とトイレを世界中に	R6年度 排出ガス発散防止装置を備えた重機車両への入れ替え。(ロータリー除雪車1台) R6年度 現場事務所に設置するトイレは、循環型バイオトイレを採用し4台設置した。	指標	新規購入車両は、排出ガス発生装置を備えた車両とする。新規工事でも循環型バイオトイレを設置し使用する。
				目標	2030年までに、所有する重機車両の80%以上を、排出ガス発生装置を備えたものとする。 2030年までに、工事現場に設置する仮設トイレは全て循環型バイオトイレとする。
社会	地元小学校、中学校で出前授業を行った。工事現場に地元小学生を招待し、現場見学会を行った。	④質の高い教育をみんなに, ⑪住み続けられるまちづくりを, ⑰パートナーシップで目標を達成しよう	R6年度 中学校で出前授業 1回 R5年度 小学生を対象に現場見学会 1回	指標	地元小学校、中学校での出前授業や現場見学会の継続。
				目標	学校と定期的な連携を図り、2030年までに、現場見学会を1年に1回の恒例の行事にできるようにし、子どもたちの学びが広がるようにサポートする。
経済	土木工事にICT技術や新工法の導入している。新工法ではウォータージェット工法を採用し、コンクリート除去作業を行っている。	⑧働きがいも経済成長も, ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう, ⑪住み続けられるまちづくりを	現場作業の効率化の為、自動追尾型トータルステーションや重機マシンガイダンスの導入。発注者との連絡手段として、情報共有システムを導入。 新工法のウォータージェット工法を採用し、コンクリート修繕工事等で活躍している。従来のはつり作業と比較すると、技術面では補修工事において構造物の健全性を保つことができる。粉塵や騒音の低減に加え、化学薬品を使用せずに施工できるため環境負荷の低減にも役立っている。	指標	ICT技術を取り入れることで、現場や事務作業の効率化を図り、残業時間の削減につなげる。
				目標	2030年までに年間の残業時間を30%削減する。
ガバナンス	チェック				
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている(PDCAサイクル等)。 <具体的な内容を記載> 重点目標については、社内共有を実施。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	SDGsの達成に向けた重点的な取組みをホームページ等で対外的に公表している。 ・SDGs取組み記載ページ URL: http://www.kkhokuei.com/company/			